

産業建設委員会記録

令和3年1月29日（金）

9時57分～12時00分

全員協議会室

【委員】串崎委員長、飛野副委員長

川上委員、野藤委員、笹田委員、布施委員、道下委員

【委員外】西川議員、小川議員、牛尾議員

【議長団】なし

【執行部】

（産業経済部）湯浅産業経済部長、大驛商工労働課長、田中ふるさと寄附推進室長、
久佐農林振興課長、永見水産振興課長、戸津川水産振興課副参事、
岸本観光交流課長

【事務局】近重書記

議題

1. 執行部報告事項

- (1) ふるさと寄附について（報告） 【ふるさと寄附推進室】
- (2) 県民参加植樹イベント浜田会場の募集開始について（報告） 【農林振興課】
- (3) 漁業別水揚げについて（報告） 【水産振興課】
- (4) 浜田漁港周辺エリアの施設整備状況について（報告） 【水産振興課】
- (5) 新型コロナウイルス感染症関連の事業者向け浜田市支援策【第5弾】の実施について（報告） 【観光交流課】
- (6) その他

2. その他

3. 産業建設委員会の取組課題について（委員間で協議）

以上

【議事の経過】

[9 時 57 分 開議]

串崎委員長

本日出席委員は7名で定足数に達している。直ちに委員会を開催する。本日の執行部出席者は議題に関係のある管理職のみとなっている。資料は事前にタブレットに配信しており、委員は事前に読み込んでいるため、執行部報告事項については補足説明としている。質疑答弁は簡潔明瞭に願います。ではレジュメに沿って進める。

1. 執行部報告事項

(1) ふるさと寄附について (報告)

串崎委員長

執行部から補足説明はあるか。

ふるさと寄附推進室長

(以下、資料をもとに説明)

串崎委員長

委員から質疑はあるか。

川上委員

ふるさと寄附の返礼品の中に、野菜の詰め合わせが1か所あったと思うが、増える予定はないか。

ふるさと寄附推進室長

確かに今、弥栄から1つ、詰め合わせのセットが出ている。JAにも果樹を中心にいろいろと商品を出していただいているが、今のところ詰め合わせセットの提案は出ていない。特に今年度は巣ごもり状態ということで、家庭で調理できるもの、水産物などでも簡単に加工できるものを出したので、野菜もできるだけ簡単調理ができるセットを模索していきたいと考えている。

布施委員

このコロナ禍の今年度に10億円を突破して、1月21日時点で11億円と。非常に経済が減少している中でふるさと寄附が10億円を突破して私は、前年度とか過去と比べると10億円突破しても達成率が88.6%と言われたが、非常にありがたいと思っている。というのも新型コロナウイルスの対策の他市町村に基金がないところ、浜田市はふるさと寄附の基金を使って充当する。うれしく思っている。

高額寄附はリピーター確保のためにされたと言われたが、どうやって高額として寄附を線引きしたのか。高額寄附者にダイレクトメールを送った効果。4800通送ったそうだが、何%がリピーターになったのか。また特産品パンフレットもDM発送、800人に送ったそうだが、これも効果が必要である。まずそこを聞く。

ふるさと寄附推進室長

高額層の方にダイレクトメールを送ったとあるが、出すたびに予算を見ながら出せる範囲を決めているため、毎回まちまちではあるのだが、大体50万円以上の寄附といったラインを設定する。大きいのはどちらかというとネットで申し込みをされたか、カタログを見て郵便振替で申し込まれた方を重

視している。その中である程度高額のラインを20万円や30万円や50万円など設定し、予算範囲内で案内が出せるところを抽出している。

このたび、初めてはがきタイプのダイレクトメールを出した。スマホなどで読み取ってそのまま申し込みにもつながる。費用的にもパンフレットを送るより安く、効果も高いのではないかとということで発出している。

それから高齢の方を中心に、ネットではなくカタログを見て郵便振替などで申し込まれる方も多いため、カタログやパンフレットの送付も並行でやっている。こちらの効果については、毎年数%から10%程度で、送って即結びつくところは見えてこない。今年度はまだ集計していないが、年末に向けて送っていたものが、今後また長いスパンに入ってくるところもあるので、もう少し効果はあるものと思っている。

浜田市のリピーターは毎年50%程度いる。浜田市が10億円の寄附額を突破できるのも、そうしたリピーターを十分確保できているところが非常に大きいかと思うので、今後もいろいろな通信方法をもとにしてつながりをつくっていききたい。

布施委員

リピーターが50%とのことだが、分析をするのに、やはり取り組みをして実績が出る。分析をする。そしてアクション。PDCA。その繰り返しだと思う。アクションを起こすのに、分析するのに今のリピーターの方は従来の毎年頼まれた金額をされて、同じような返礼品を望まれているのか、それとも新たに新商品に浜田市全体の返礼品を頼まれているのか。そういう細部にわたる分析をされているか。

ふるさと寄附推進室長

寄附者ごとまではできていないが、毎年ランキングも出しているようにどういった商品が人気かは出している。リピーターが申し込まれる商品は、やはり同じ商品をずっと定期的に頼まれる方も当然おられる。事業者の仕入れなどいろいろな都合で商品が変わったりするが、そういうときには逆に問い合わせがきて、前から頼んでいるこれはどうなったのかという話もある。根強いファンが各品目におられる。

最近取り組んでいるのが、定期便やいろいろな商品を組み合わせたセットものそれから定期便を行っているので、そういう方向に移行されるお客様もいる。

布施委員

楽天の有料広告を実施とあるが、有料広告枠に載せた場合どのくらいの費用がかかるのか。

ふるさと寄附推進室長

12月に掲載したのは、楽天ふるさと納税へ掲載している。費用が80万円の消費税で88万円。浜田市はPR業務を既に外部へ業務委託しているため、その業務委託費用の中から負担していただいているため、市が追加負担はしていない。

布施委員

クラウドファンディング型ふるさと寄附が目標に対して200

ふるさと寄附推進室長

万円ばかりオーバーしたのは非常にうれしいことである。クラウドファンディングの目標を達成した場合は、寄附者に何らかのお礼をと思う。前に報告があったかもしれないが、クラウドファンディングを達成した場合のお返しがあるのか。

お返しというところでは、物品を送ることは、以前、防犯灯でクラウドファンディングをやった際はまだいろいろ可能だったのだが、昨年度に国が新しいルールをつくり、厳格に返礼割合が30%ということが決まっているので、それ以上に物をお送りすることはできないが、このたびの結果報告と現在まででどういったことに使わせていただいているかを、寄附者への礼状の意味も含めてご報告する予定にしている。

布施委員

クラウドファンディングを始めるときにそういったことをうたった状態で始められたのか。達成することを想定して、返礼品ではなく、達成率が30%だったから返礼品がないとかではなく、このクラウドファンディングが達成したら報告と礼状だけだという決め方をされたのか。

ふるさと寄附推進室長

少し説明が不足していた。今回のクラウドファンディングについては、通常ふるさと寄附と同様に、市外の方については返礼品が選択できるようになっている。希望される方には返礼品を送っているのですが、今回お礼の意味で追加で物を送ることができない。既に30%分を送っているからできない。市内にも市外にも返礼品を辞退される方は当然おられるが、今回については最後の報告は、事業報告とお礼の文書をお送りさせていただき予定である。

野藤委員

数字を見ると当初は厳しくて今年は半減だろうと思っていたが、10月、11月でV字回復というか対前年度比を達成している。この要因はポータルサイトを増やしたことでなく別のことが起因していると思うが何か心当たりがあるか。

ふるさと寄附推進室長

途中の段階で危機感もあったのでいろいろと対策を打っていた。新しい商品を増やすといった取り組みをしていた。例年の傾向を見ても浜田市の返礼品の主力はノドグロを中心とした水産物であり、どうしても冬場が強い状況である。今年度も冬場は前年とほぼ同様の数字で、10・11・12月の最盛期3か月間の数字を見ると、去年とほぼ同じくらいの数字になる。97.9%。一方4月から9月の前半戦を合計すると、前年比73.1%で、春夏は干物などが選ばれにくい状況がある。

今後はこういった期間の対策をどうしていくかが必要かと思っている。具体的には果実など、この季節に売っていただけるものを探すこともあるし、通年で売れる特産品の開発など、時期をずらして秋以降にお送りするものでも春先から予約受付をして、早目に寄附を確保するなどの対策を考えている。

野藤委員

大変なご努力だと思う。今後も続けていただきたい。

ふるさと寄附推進室長

受付サイトとして12月から a u P A Yが入っているが、A N Aのふるさと納税サイト、47 C L U B、それからこの新しいところ、それぞれサイトごとの金額は把握されているか。

開始したのが11月から A N Aと47 C L U B、12月から a u P A Y。特に47 C L U Bはサイト自体が新しく始まったものである。この年末までに入った金額だが、A N Aが約660万円、47 C L U Bは28万円、a u P A Yが170万円。開始して1、2か月なのですぐには伸びないのだが、A N Aは以前も加入していたので、それなりに数字が出ていると思う。

野藤委員
道下委員

非常に健闘している。よろしく願います。

このコロナ禍で随分と寄附額が少なくなるのではないかと不安を持っていたが、よく頑張っておられる。大変ありがたい。

寄附額増額のためにいろいろな手段を講じられているが、クラウドファンディングが500万円に対して700万円。前回の防犯灯についても非常に実績がある。ふるさと寄附事業の中で今後、クラウドファンディングを利用した寄附額増額をどのように考えているか。

ふるさと寄附推進室長

今年度実施したクラウドファンディングについてはご報告したように、目標を大きく上回る金額をいただいた。前回の防犯カメラの設置についてもやはり目標を大きく上回る寄附をいただいた。

今後、ふるさと寄附推進室としては、何か必要が生じる事業、財源的に一般財源の支出、国の補助が難しい事業といった案件があれば、こういったクラウドファンディングも検討していきたいと思っているが、何より大事なのはどういうテーマを抱えてやるかだと思う。この2回のクラウドファンディングを実施した内容は、小中学生の安全や衛生面にかかわり、非常に反響をいただいたと思う。返礼品の対象とならない市民からも寄附をいただくこともあった。やはりこういったテーマを掲げられるかが大事だと思う。

道下委員

クラウドファンディングをやるために事業をつくるわけにはなかなかいかないが、災害などがある場合に、よその自治体でもクラウドファンディングが始まっている。現在は全国的に多数のクラウドファンディングが立ち上がっているので、できるだけ共感を得られるような事業があれば、我々も積極的にやっていきたい。

よく頑張っている印象を持っている。今後も頑張ってもらいたい。

ふるさと寄附推進室長

非常に評価をいただいてうれしいのだが、いくつか報道を見ると逆にコロナ禍の巣ごもり状態の中で寄附額は全国的に伸びているところも多いと聞いている。浜田市の場合は平成2

7年度から毎年10億円以上の寄附をいただいていると先ほど申し上げたが、他の自治体に先駆けてクレジットカード決済や返礼品数を充実させた取り組みをしていたので、浜田市を含む一部の自治体が独占状態で走り出していた。そこから徐々に加入自治体が増えてきて、返礼品数も相当増えている。そういった中でいかに選ばれるか。特に返礼品数がある老舗のポータルサイトだと平成30年度には16万点だったのが、令和2年度には約28万点となっている。先行していた我々自治体と、どこもほぼ同じような取り組みをどこの自治体もやっている。そうしたゼロベースの競争の中、何十万点から選ばれる努力を今後していかなければいけないため、いろいろと取り組みを検討していきたい。

笹田委員

室長が言うように、全国的に寄附額が増えていると報道があった。10月、11月は100%を超えているのだが、12月は毎年多い。確定申告の税金が終わる関係で駆け込みというか。ここが勝負だと毎年聞いている。今回これがパーセンテージでいえば90%にも満たなかった。この要因はどこにあるとお考えか。

ふるさと寄附推進室長

今回報告の10月、11月で浜田市が大きく伸びたのも、農林水産省の補助金を活用して返礼品の量を増やす事業がふるさとチョイスのほうであり、この秋の期間に浜田市もやっている。そういった事業で寄附金を集めることもできたので、この秋口の金額が高くなったのはそういった要因が大きいかと思うが、逆に12月にそれを実施したところが相当な金額を集めている。浜田市の場合、松永牧場や島根和牛も先日から取り扱うようになったのだが、まだ供給量が少なく、それほどの数が出せなかった。九州や北海道を中心にそういった補助金を活用して相当な数を出し人気を集めていたため、この部分では競争に勝てなかったと反省している。

例年12月が大きいのだが、我々は10・11・12月を最盛期と見なして、多少は月を外れることもあるので、その期間でどのくらいが確保できるかといったところでそういった補助金を活用して対策したので、今回については、最盛期、12月は少なかったがある程度の対策はできたのではと思っている。

笹田委員

下に有料広告の実施ということで楽天に1週間ほど有料で掲載したとのことだが、どのくらいの値段だったのかと、この期間、広告を打ったからこれくらい伸びたという結果があるのか。

ふるさと寄附推進室長

具体的な数字はまだ出ていないが、やはり掲載したときは伸びている。この広告というのが、浜田市だという広告ではなくて人気商品を4、5点掲載して、そこから浜田市の全体に誘導していくような流れを持つ広告で、特に掲載された商品

笹田委員

を中心に、似たような商品がこの期間に数字を伸ばした。

有料広告掲載の金額は先ほど言ったように88万円である。

効果があれば本当にそういうものを利用して寄附額を増やすことはよい手だと思う。今回全国的にコロナ禍でステイホームが長引き、今も緊急事態宣言が出ている最中であるが、コロナでステイホームをするに当たって関連づけた商品等の開発、浜田は魚も野菜も肉もおいしいところなので家で鍋や焼き肉、魚料理をするとか。コロナに特化した商品をつくっているところが最近多いと聞いているが、浜田はどうか。

ふるさと寄附推進室長

お答えする前に先ほどの88万円だが、市から直接支払うのではなく業務委託している委託先から、PR業務の一環として負担いただいている。

ステイホーム関連商品だが、今年度特に伸びたのが去年も触れたが天然アンコウ鍋のセット。こちらが去年から始まって非常に人気があったが、今年さらに伸びている。

今年新たに始めたものとして、おせち料理がある。おせち料理に関しては12月31日に届かないなど他県で問題があったので、うちも及び腰ではあったのだが、既に浜田市内で何年もおせち通販をやっておられる事業者があり、そちらから提案があったので私どもも安心してお任せした。非常に人気で早いうちから売り切れ状態で、追加で仕入れをしていただいた。そういうのは今年度の、特にステイホーム関係なのかと。

委託事業者と対策を検討する中で、定期便をつくらうと。リピーター確保の面もあるので、一度の寄附で数回にわたり商品を送る。これまでは一つの業者が例えばお米の定期便で毎月5キロ送るなどがあったが、今取り組んでいるのは複数事業者の商品を組み合わせて、例えば今月は魚、来月は肉という形で、広く選択肢を持てるよう組み合わせ商品を出している。始めたところではあったが、ある程度続けて頼んでいただける方も出ているので、今後も伸ばしていきたい。

笹田委員

いまだによくふるさと寄附が報道されるが、目玉商品、例えば牛1頭という自治体もあって、300万円寄附されたら部位をわたすといった返礼品もある。寄附額が少なくなくても市をPRできるような特化した大きなものも、返礼品としてつくれば市もマスコミにも取り上げられやすいと思うのだが、そういうものは全く考えていないのか。

ふるさと寄附推進室長

浜田市も豚1頭というのはあって、小分けにして定期的にする商品である。まず、ふるさと納税制度からいくと、あくまで支払われた額は寄附金である。お送りする品物は購入したものではなく市から送る返礼品であるということで、送ったものは寄附者が受け取ると商品価値は一時所得になる。50万円を超えると課税対象となるので、浜田市では返礼品が最高5

笹田委員

0万円程度で抑えている。

サイトを見ると何千万円のものや下手をすると核シェルターまであるが、そういった自治体がどこまで寄附者に対して説明されているか我々も疑問に思っている。

浜田市としては寄附者にご迷惑をおかけしないよう、そういったラインを引いている。

室長が言われたようにこれはあくまでも寄附で、ふるさとに使うていただきたいというのが本来の目的だと思うが、現実にはそうではなく、よい返礼品のところに寄附するのが言い方は悪いが主流になっている。それを目当てに寄附するのが当たり前になっているので、そこは外さないようにしていただきたい。

恐らくほかの自治体もそこは考えてなくて、それを利用して、市のPRの一環として行っていると思う。そういった意味では浜田市は最初成功したが、ご存じのように順位がどんどん落ちてきている。米子市に抜かれ下がっている現実もある。確かに頑張って寄附額が思ったよりも減っていないこともあるが返礼品を利用して浜田市の名前を売っていく施策も考えていくことは、一つの手だと思う。そこをやっている自治体があるというだけの話で。先ほど説明があったように課税対象になるといった問題もあろうかと思うが、そういったことも利用しながら順位が下がった原因は何なのか、過去上位10以内に入ったこともあった。それが今は10位以内にも入らない中で努力は認めるが商品だけの勝負になっている面があるのでそういうところで売ること一つの手ではないかということでは言わせていただいた。

今後これを利用してどのように浜田市を売っていくか、どのように浜田市を知ってもらうか。一つのコンテンツになり得ると思うので、そのあたりもしっかり考えていただきたい。

串崎委員長

そのほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 県民参加植樹イベント浜田会場の募集開始について (報告)

串崎委員長

農林振興課長

串崎委員長

布施委員

執行部から補足説明はあるか。

(以下、資料をもとに説明)

委員から質疑はあるか。

植樹祭を10か所でされるとのことだが、県の木がクロマツである。昭和41年に県民投票で選ばれたのがクロマツだと記憶している。この植樹祭もクロマツか。各会場広葉樹もあるし植樹する場所も影響してくると思うがそういった報告がなかったので確認する。

農林振興課長

樹種については県から詳細な話は聞いていない。浜田市の

布施委員

場合は複数の広葉樹の苗木を準備すると聞いている。県内各会場においても、会場に合わせた樹種をそれぞれ準備することによって、統一した樹種で植樹イベントを行うということではないようである。

県の木でクロマツかと思ったが、マツは針葉樹の中でも成長も管理も枝打ちがあつて難しい部分がある。広葉樹ならいろいろな面がある。おとといの新聞に報道があつたが、植樹祭に対しての記念品という悪いが、西部山村振興財団で6種類の広葉樹を使って記念品のうちわをつくつたと。技術的にも加工が難しかったと思う。そういった記念品があるがこれはあくまでも参加者への記念品なのか、今後そういったうちわを作成したから山の特産品として一般商品として売り出すことも考えながらの商品づくりだったのか。

農林振興課長

新聞に載っていた木の扇子だが、全国植樹祭の全国林業後継者大会の記念品として市から西部山村振興財団へ、何か記念品として適切なものがないかと相談させてもらった中で、商品開発中だった今回の扇子を記念品として採用させていただいた。

今回、後継者大会が当初400人の参加希望ということで扇子を400本準備して、それを来年度に購入する予定だったが、コロナの影響で来年度の後継者大会はどうも半分の200人規模に縮小される予定である。記念品が残ってしまうので、それについては今回の3月20日の植樹イベントの記念品として一部使わせていただき、せっかくなのでPRとしてこの場で配らせてもらおうと計画している。西部山村振興財団は今回のことで一定程度の製品クオリティを上げていくと伺っているので、今後は需要を見ながら商品化に向けて精査していきたいと。すぐに商品になるということではないと思うが、将来的な商品として検討したいと聞いている。

布施委員

なぜ私がそこまで聞くかということコロナ禍で四国の徳島では、阿波のうちわのサイズが口を覆うのにちょうどよいことがあるらしい。食事をして会話をするときには都度マスクをつけたり外したりするのが一番よいらしいが、中々できないからうちわを当てて会話をするという報道があつた。製品化するものは、普段うちわは、冷風を当てて涼むイメージがあるが木でそういった発想をする。せっかくなのでうちわだけではなくコロナ禍で会話をするのに、マスクを外したときに少し至近距離で話すときにはうちわを使ってコロナ感染を防ぐと。そういった面に使えないかと思って言った。

西部山村振興財団に、うちわとしての価値ではなく木の宣伝と、コロナ禍で飛沫感染を防ぐという意味合いでそういった使い方ができるのではと提案していただいたら、製品化す

農林振興課長

るにしてもプラスワンの効用ができるのではと思って質問した。何か感想はあるか。

私もそのうちのニュースをたまたま見た。委員の言われるとおりだと思う。財団にはそういったアイデアとして販売に向けてこれからも精査してもらおうよう話はしておきたい。

川上委員

この事業に浜田市はどこまで介在しているか。

農林振興課長

あくまで今回の植樹イベントについては島根県が主催で、会場や苗木の準備など、全般的に島根県が費用を負担して準備を進めておられる。浜田市はPR部分と、例えば小学校への参加要請、当日の運営のお手伝いとして参加させていただいている。

川上委員

当日の運営の部分への参加ということは、当日市職員がそこへいろいろな方が参加されると思うが、それは有償か無償か。ボランティアか。

農林振興課長

主催する島根県の共催という位置づけで参加するので、参加スタッフとして入るものは業務として携わるし、植樹イベントの参加者として応募した職員についてはもちろん業務外という形で参加することになるかと思う。

川上委員

共催と言われたが、これを見る限りどこにも共催が書いていないのだが。どこに表れているか。

農林振興課長

今回のチラシについては島根県で準備されたもので、まだそこまで共催や主催が入ったチラシにはなっていない。ただ当日、改めて植樹関係のチラシと記念品等を準備しておられて、その中には主催島根県、並びに浜田市という名前が入ったものが改めて配られるようには聞いている。

川上委員

この事業は予算化されているのか。

農林振興課長

先ほども申したように、費用的なものは全て島根県が見ている。第71回全国植樹祭島根県実行委員会で持っている予算の中でこのイベントを実行される。

川上委員

島根県が持っている予算で動くということは、浜田市の方が参加した場合、協力した場合は島根県から出てくるということか。

農林振興課長

スタッフとして入るものについてはあくまで共催という形で入るので、そこに島根県が費用負担をされるというものは無いが、市の業務としてそこに協力する。

川上委員

市の業務として参加するのであれば、市の予算を使って人件費を出すということか。人件費なり何なりと。それはどこに表れてくるか。

農林振興課長

市の林業関係職員費があるが、その中で時間外は負担していく。

串崎委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(3) 漁業別水揚げについて(報告)

串崎委員長

執行部から補足説明はあるか。
(「なし」という声あり)

串崎委員長
笹田委員

委員から質疑はあるか。
産業経済部長へ伺うが、今回このような状況で通算水揚げ高が36億8000万円となり40億円を切ってしまった。非常に力を入れているにもかかわらず水揚げが下がってきた。久保田市長が最初に就任されたときに目標100億円という話もあったが、これだけ落ち込んでくると何かしらしっかりやらないといけない思いがある。部長はこの数字をどうお考えか。

産業経済部長

水揚げについては浜田の最重要課題。まずは環境整備として荷さばき所を整備している。またPR促進のために旧お魚センターを新たな市場として開業しようとしている。また新造船をつくるための補助事業の相談、また瀬戸ヶ島養殖事業についても推進している。こういった事業の一部はコロナ禍においてなかなか営業活動ができず、瀬戸ヶ島についても本来ならよい報告ができたのではと期待していたが。そういうことが止まっている状況もある。

布施委員

根本的な浜田沖の水域における魚資源は自然の状況なのでなかなかここまで関与するのは難しいが、稚魚・稚貝の放流や養殖・栽培にも力を入れているし、また、県外船誘致も引き続き力を入れている。全ては自然頼みになるのだが、それだけでなくまずは環境を整備し、他の漁船も誘致する。根本的な浜田の地元船団も存続する努力は引き続き行っていきたい。数字に関しては非常に残念な結果となっているが、浜田沖の魚価が回復したときに遅れを取らないよう、しっかり基盤整理は進めていきたい。

笹田委員が産業経済部長の答弁を求めたが海の資源を相手にするには気温や水温等に影響されるのだが、安定的に一定量を確保するならば単価の高いものを獲ったり養殖したりすることが必要ではないかと思う。埋立地の養殖にしてもコロナ禍で進まず、ゼロではないが厳しい状況である。

昔、私が委員のときに、このメンバーの中でも何人も岡山理大に行って魔法の粉ということで真水を使って、その粉を使って海の魚が生存できるという研修をした。商品化や使用するにはクリアすべき点があったと思うが、そういうものをしっかり研究して、浜田の耕作放棄地などいろいろなところで使えるはずだし、あれから随分経過して進歩もしているはず。准教授も何度もテレビに出て、こういうことにも使えるようになった、単価も安くなったと報道があった。せっかく石央文化ホールで漁業者を集めて研修会をしたにもかかわらず

産業経済部長

ず、何も手をつけない状況でずっと来ている。

部長は個人的な考えでもよいが、ああいったものに可能性というか個人としての考え方と市としての取り組みを、どう線引きされているか。

養殖事業については委員おっしゃるように、市長自らもあちこち視察をしてお話を聞きながら取り組んできた。その中で、今やるべきはまずは瀬戸ヶ島を活用した陸上養殖だと。これも近畿大学の先生やいろいろな事業者に当たる中で、浜田市にゆかりのあるマルハニチロが共同研究に手を上げてくれた。井戸も掘って環境はほぼ問題ないことが確認できた上で、事業計画を進めていくところまで当委員会でも報告をしているが、話したところでコロナになった。これにより水産業全てが大打撃を被っている。

マルハニチロは日本でもトップクラスの企業だが、そういうところもかなり影響を受けている。マルハニチロに限らず全ての水産事業者が受けている。そういった中で、浮気ではないが、ほかのところの話もあったのでそちらに話を聞きに行くということもできるかと思うが、マルハニチロが大変な時期を迎えているときに、マルハニチロがその気になっているのに、他を攻めるといのは本当に得策なのか。恐らくほかも大変な状況にあると思う。ここはお互いに我慢のときで、まずは浜田もマルハニチロに一途にお願いする。マルハニチロがコロナ後の見通しが立ったときにぜひ浜田市に、とお願いすべきだと個人的に思っている。

先日市長もマルハニチロの担当責任者の方とお話しして、同じようにコロナの状況を見ながら浜田も取り組むと話をさせていただいた。

布施委員のお気持ちはわかるし、我々も可能性があるところにはあちこち行きたいところではあるが、今はこういう状況なのでしっかり耐えて、ぜひマルハニチロに来ていただけるようにお待ちしたいと考える。

布施委員

それは私も同じである。ただ商売というのは一本の筋を通すことも必要だが、二立て・三立てで考えておくべきである。主流のものは大事にしてやっていくということは大事である。商売は一寸先が闇だから、本筋は支えながら取り組むことを明確にしているので、それ以外に。

私たちも中山間地でいろいろ考えるときに、耕作放棄地は農地だから農業をすればよいという発想ではなく、そういったところを真水で海のものを育てることが現実として数年前に実験で成功した。それも浜田で研修会もした。その可能性についてやらないから終わりではなくて研究して次を考えたらよいのではという意味で聞いている。部長も見たはず。そ

産業経済部長

れに対する感想はどうかと聞いている。

当然可能性はあるので。その辺は担当者も皆存じているので、引き続き可能性は研究していきたい。

道下委員

漁獲量1万トン、漁獲高40億円を割ってしまい、本当に寂しい思いがする。単価の高いノドグロの漁獲量を上げるのに、網の目を。時期的に網を投入しないということを平成28年あたりからやって、今回それが8月、9月に効果が出たのかと前日も聞いたと思うが、対策を今後続けるのだろうが、もっと改善したものにするといったことは把握していないか。

水産振興課長

禁漁区の設定ということで時期的には3月から5月の間に、ある一定の海域で獲ったところで、ノドグロのいわゆるメッキンの箱数を一定期間禁漁にする。しかもその船だけではなくほかの船もそこには行かないよう情報共有しながら禁漁している。6、7、8月は沖底が休漁期になるので、その間にノドグロが大きくなり、8月9月に脂が乗ってよいものが獲れるといった取り組みをしている。確かに8月はノドグロの量は上がっている。今後こうしたことは継続していく。

今、新船建造の検討も進める中で収益性の改善の取り組みとして、この禁漁区をさらに見直しながら取り組めるよう検討を始めている。しばらくは今の状態で継続することになるが、将来的には徐々により効果の高い禁漁区設定で進めていきたい。

道下委員

こういう事案は全国的にも評価されていると思うが、新船建造事業にもかなりの点数がアップするものと私は考えるのだが。この事業をもっと広げていくさらなる考えがあるのだと、国に求めていくことが必要だと思うが。

水産振興課長

おっしゃるとおり、リシップしてその中の取り組みで禁漁区もやった。水産庁長官表彰を島根県底びき網漁業連合会がもらった。今から新船建造をするのに委員おっしゃるとおり国に申請していく必要があるが、その計画上、全く同じ取り組みの継続はなかなかハードルが高いという情報を得ており、バージョンアップした取り組みでないと国に了承していただけないと聞いている。それも踏まえて今検討している。島根県水産事務所や島根県水産技術センターと連携を取りながら協議を進めている。

道下委員

県と一緒にあってそういうところを評価してもらうのに、汗を流していただきたい。

野藤委員

アンコウの水揚げが昨年と比較してずっと下がっているのが気にはなるのだが。ブランド、先ほどふるさと寄附の返礼品でも今アンコウが注目されているので値段が上がっているのと思うが、割とマスコミで出てくるのがバトウ。バトウの水揚げについて出てないのだが、今どういう状況か。

水産振興課長

バトウの水揚げ、前年比なのだが令和元年が71トン、令和2年が132トンで、水揚げ量は増えている。

野藤委員

バトウのフライを使ったフィッシュバーガーやバトウの丼などいろいろ出てきている。令和元年からいくと漁獲量が増えているので安心したが、もしかしたら浜田の新たな特産品になるのかと思っている。この辺も水産振興課に注目していただきたい。

水産振興課長

バトウについても浜田港四季のお魚ということで、その中でも特にバトウはPRを積極的に進めている。四季のお魚の中でもバトウに特化してホームページにアップしたり。

沖底の沖獲れ一番というブランドがあるのだが、その中にもバトウを入れて売り出しをかけている。バトウは昔から浜田になじみのある魚なので、しっかり今後もPRを続けていきたい。

串崎委員長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

ではここで暫時休憩とする。11時10分まで。

[11時 00分 休憩]

[11時 07分 再開]

(4) 浜田漁港周辺エリアの施設整備状況について (報告)

串崎委員長

執行部から補足説明はあるか。

水産振興課副参事

(以下、資料をもとに説明)

串崎委員長

委員から質疑はあるか。

布施委員

浜田港周辺エリアの施設、4号解体トラックの道路の確保とかあの場所のちょうどマリン大橋を下りて7号へ行くほうと、そのまま臨港道路を走るほうと、信号機がない。変則4か所の交差点で。トラックの道路を確保するために広げるという話があったが、あそこは将来的にどういう交差点になるのか。現在の公設仲買売場の建物を解体して更地にする計画もあると思うが。あのあたりに一旦停止違反で捕まることがある。本来は一旦停止をすべきだが、広い交差点で今回拡幅に併せて交通整備は必要だと思うが計画はあるか。

水産振興課副参事

今の臨港道路の南側に寄せることは公安委員会との協議で決めた。交差点も併せて南側に寄る。6号市場の付け根の交差点も直角になるよう変更することになっている。ただ信号機の設置までは至っていない。現地をご存じのとおり白線も結構見にくくなっており、止まれが見えにくいところもあるかと思うが、今の道路は剥ぎ取って全部新しく舗装し、区画線も引くことになるので、そういう意味では制御できるかと思う。それで不十分であれば協議しながら、道路改良に併せ

笹田委員

て標識などの設置も検討して、守っていただきやすいようにしたい。

4号荷さばき所について、スケジュールを見ればわかるが7号市場は巻き網をされて、新たな4号で底びきをされる予定だと思ふ。今6号でされている一本釣りはどこで競りをされるのか。

また今ある5号はどのような利用になっていくのか、改めてお伺いしたい。

水産振興課副参事

一本釣りの競りについては4号に集約していくよう計画している。ただ陸揚げされる船がどうしても小さい船で岸壁の高さが合わないということがあるので、6号で水揚げして短い距離だが陸送するといった対応になろうかと思ふ。6号は岸壁が低いので。そのようにしようとJFと協議している。

5号も6号もJFの施設である。4号ができた後の利用については決めていないのが実情である。7号と4号の利用状況を見て、JFの所有施設であるのでどのように利用していくのか、建築に併せて計画も考えたいが、現時点では未定である。

笹田委員

一つ問題がある。今6号市場で競りをしているのだが、活魚水槽の水源がもともと4号市場から引かれていて、あれを解体したために活魚水槽に水が来ないと。今は冬なので外からポンプで上げて、水が回っているわけではないが、仲買業者も生産者も夏はもたないのではないかと、できないのではないかと、水源をどうにかしてくれないかという話をいただいている。

JFの持ち物なのでこればかりは市がと言うのもどうかとは思ふが、4号自体の工事を市が発注している以上はやはり、4号をやるまでは6号の整備もしておかないと、生産者、仲買、JFにご迷惑をかけることになる。冬は水温が下がっているので1回水を入れると氷のように冷たくなって、活魚でも死んだように全く動かなくなり生産者もお困りの状況が続いている。夏で水温が高くなると、とてもではないが水が循環しないと魚がだめになってしまう。よくご存じだと思ふが。その辺の対応を市はどのようにお考えか。

水産振興課副参事

6号については4号から海水が行っていたので、現時点では6号に水が行く状況になっていない。JFとは、そばに海があるからそこからくみ上げて活魚水槽の水を確保するという事で協議していた。4号荷さばき所を建設するまでに15か月かかる。4号で活魚水槽の対応は当然水槽の温度も調整できる循環型水槽を考えているので、できたときはそれを活魚水槽として活用いただきたいと思っているが、その間である。4号の向かい側に今仲買売場があり、ここも4号を通じて海水が行っている。4号も解体することで、これは仲買からの強い要望で、海水をとめるわけにいかないの、そこへは仮設で海水を、

笹田委員

整備した荷さばき所の取水設備からあそこへ送っている。そこからまた6号に送れるかどうかわからないところもあるのだが、それも踏まえて少し検討させていただきたい。

供用開始が令和5年となると、2年間丸々あそこを使用することになるので、その間は責任を持ってあそこで競りが行えるようにしないと、JFの持ち物であれ4号は市が解体して開設するものなので。その辺もしっかり考えて対応していただきたい。

はまだお魚市場の件だが、愛称がこれに決まったということで我々がもう口を出せない状況になって、この名前でのいかと個人的に思うのだが。

前回第一ビルサービスとの意見交換でいろいろな不安を、3月にスタートした後の不安要素や危惧していたことが現実になり不安がある。3月21日に仲買棟だけは公設市場に移動して開催するのだという話が出たが、以前副参事にも言ったが、仲買と市とが施設内容が言っていたものと違うと、日曜にお叱りを受けた。いろいろ聞くと、電源位置も水に被るようなところで、なぜあのような場所につくったのかとか。それを濡れないようにするには自費でやってくれと言われたという訴えもあった。第一ビルサービスからの説明もあったが仲買人にそのように言われると、3月21日オープンで本当に大丈夫か、市も仲買人もきれいにスタートできるのか不安があるのだが、市はどのようにお考えか。

水産振興課副参事

今日の委員会報告に先んじて、昨日仲買人にお集まりいただき説明をさせていただき、仲買棟だけのオープンについて報告をすることに対して意見をいただいた。お一人欠席だったが皆に参加いただき、一応賛同をいただいて3月21日にオープンすることをご理解いただいた。移設に当たっての個々の要望など、不具合も含めて意見はいただいている。業者ごとに違う方針があるし、市が対応できない部分はあるかと思うが、そこは一つ一つ業者の話を聞いて、対応できるところは対応したいとご説明もした。一応皆はそれで納得していただいている。足りなくてまたお叱りを受ける部分があるかもしれないが、それは丁寧に説明しつつ対応したい。

笹田委員

昨日説明があつてお互いに歩み寄れたならよいのだが。港へ行くとすごく雰囲気が悪い。コロナ禍で魚も安い、仲買人も見ていると手を出さない、やはり売れないのだということで非常に苦慮されている。そうなる魚をとっても生産者は値段が上がらないので、このような値段なら行くのをやめようという生産者もいるし、仲買人も売れないから買わない。悪循環が出ている。

その中で3月21日オープンとなると、仲買人からもあつたよ

水産振興課副参事

うに入ったが継続してやっていくのは難しいかもしれないという意見も聞いている。スタートがすごく大事で、継続できてそこで商売していただくのが市の役目だと思うので、支援も考えていかないと。できたはよいがそういう状況に陥る可能性が出てきているなど身に染みて感じているのでその辺りどのようにお考えか。

産業経済部長

昨日の説明会でも仲買から、コロナ禍で非常に1月が減ったというご意見をいただいた。いずれ移らないといけないことは皆に理解いただいているが、コロナ禍で移ることを非常に不安視されているご意見をいただいた。状況によっては支援もいただきたいということも強く言われた。ここだけというわけにいかないなので、ほかの商売されている方も一緒だが、状況を見ながら支援については検討させてほしい。状況を見ながら。すぐのことにはならない部分をご理解いただきたいとお伝えした。支援についても考えさせてほしいと。

飛野副委員長

笹田委員が心配されることも我々も21日に向けて進めることは仲買とはずっと話をしてきたが、実は先週市長自ら仲買に行き、一軒一軒お話をした。その上で昨日、正式に議会に報告するが21日に万が一商業棟が移転されない場合はどうかという話をしたら、仲買も21日に自分らの意思で行くと言っていた。市長が行ったときも先行きを不安視される声があった。こういった声は水産事業者だけでなく全ての事業者が。浜田はほかの地域に比べたら幸いにも出ていないが、浜田の産業は都会地にかなり依存しているところが多い。消費の冷え込みも今後出てくると思うので、こういったことについてはこれまでやってきた事業者支援をまたどこかでしっかりやっていこうと考えている。全国でも1、2、3月が飲食も小売りも全て落ち込む時期であり、不安に思っているので今後しっかり協議させていただき、ワクチンが行きわたるまでの支援は今後考えて打ち出していきたい。

水産振興課副参事

愛称のことで。やはりお魚かと思っている。この愛称で本当に生まれ変わってにぎわい創出ができるのか。これは私個人の考えだが。これで決まるのかと私は残念である。

指定管理料が一度オープンを延期して、21日で一部はまだ営業ができない、しないとなると、実際指定管理を契約されるときに、そういうことは関係なしに指定管理金額はどうなのか。21日にオープンしなくても指定管理料は変わらないのか。

当初から指定管理料を市からお支払いする予定にはしていない。あくまでも施設使用料と手数料等で収益をされて、その中から維持管理費の運用をしていただくこととして市は指定管理料を支出しないことで当初計画を進めている。コロナ

飛野副委員長

によってオープン時期を3月から先送りするとなると、当初想定していた事業が進められないこととなると、何らかの補償の話が出てくるかと思っている。それについても第一ビルサービスと話をしている。時期のことと補償について併せて協議しているので、対応していきたい。

水産振興課副参事

この前の意見交換でも非常に前向きにいろいろ取り組まれていると感じた。よく頑張っておられて好感を得た。そうであれば指定管理を受けている方は大変なことが起こってくるのでは。コロナの終結が見えない中での話である。意見交換のときの熱意が冷めることのないように進めていかないことには、この山陰浜田港公設市場は成功しない。再度よく話を進めていただきたい。

産業経済部長

第一ビルサービスは先週も意見交換に来ていただいたし、定例会議もしている。また先送りするかの協議も日々行っている。常に密に連携を取りながら、第一ビルサービスの会社の中でもこれは大きな事業と位置づけていただいているので、内部でもしっかり協議していると伺っている。どういった状況であるかも想定しながら対応していく。市としてできる部分とできない部分があると思うが、しっかり対応していきたい。

浜田市と第一ビルサービスの関係、第一ビルサービスとテナントの関係。2階のテナントについてはもう2軒決まっていて、3軒目ももう21日に向けて開店できるめどがほぼ立ったという話も伺っている中で、それを延期しなければならないという話になってくるので、そこの兼ね合いもある。まずそこにお話しして、それから第一ビルサービスと我々が話をしないといけないという、段階を踏む必要がある。

布施委員

延期することで第一ビルサービスは当初の事業計画から、売り上げも全く見込めなくなる可能性もあるので、何ができるのかお互いに話をして。ただ、ワクチン接種が整ったところでぜひグランドオープンして、浜田だけではなく市外から来ていただける体制も取らなければならない。そこは第一ビルサービスが肩を落とされないよう一緒に取り組んでいきたい。

オープンに向けての大変な苦労はよくわかる。グランドオープンも大事だが、私も経験したことがあるが密を避けるとか人ごみを避けるときに1日3回オープンしたことがある。午前中、午後、夕方オープンと。このように分けてオープンすることもできる。一つの参考として。ただ、オープンするに当たりスタートに立つということは、コロナ禍だからできないではなく、どうすればできるのか。去年1年間われたこと。ワクチンを接種したらできるではなく、コロナ禍でもどうや

ったらできるか。その中でもオープンしたいということは市民にインパクトを与えることができる。商業ベースで考えたときは費用対効果とよく言われる。ただ、最初からもうかるからやる人はいない。ある程度リスクを考えながらやるのが商売だと思っている。市としてやっていただきたい。

「はまだお魚市場」という文字が出た。これは正式な今出ている青地に白文字が統一マークとして使うことまで決まっているのか。愛称は決まっている。広告の場合、ロゴはこれでいくとかそういう方向があつてよいと思う。また、ロゴを使う場合は必ずアイキャッチャー。魚のようなアイキャッチャーになるようなイラストがあつたりする。そういうところまで協議されているか。

水産振興課副参事

ホームページを開設のため、1月末に準備をしていただいている。その最初に出てくるロゴはこれにしたいと報告を受けている。イメージキャラクターや写真などは決まってはいるがまだ示されていない。本日のところはこのロゴを使う報告は出た。全体は報告をいただきながらよいものをつくっていく。第一ビルサービスはプロなのでよいものをつくっていただけと思っているが、市も協議に入つてよいものをつくっていききたい。

産業経済部長

ロゴは協議をしているということであるが当然統一ロゴを使って店内にもそれをしっかりPRする。仲買棟は両側にずらっと店が並ぶが、そこにこのロゴと各お店の名前が垂れ幕で一目で見えるように構成されている。そういったところは第一ビルサービスもしっかり、アイキャッチャーの話もあつたが対応するように。

また建物にも山陰浜田港の市のロゴがあるので、そういうところもしっかり活用してお魚をPRしていきたい。

前段部分で1年かけてリスクも持って対応するという話があつた。我々もこのことについてはこの間協議をしてどうすればよいかをいろいろと話をしてきた。今の状況で国も示しているように、感染リスクの場面は飲食が一番大きいという話が出る中で、浜田市の施設で指定管理者が行うといつても浜田市が行うお魚市場の2階部分の飲食を本当にオープンするべきかどうか、市長を含めて非常に悩んだ。市内においてもパーテーション事業を10万円まで立てて、ぜひ感染リスクをなくすように。ただ飲食店が冷え込まないようにリスクを踏まえた上で営業してくれという、営業制限ではなく。感染リスクを抑えてほしいということで飲食店からも申請が徐々に増えて対応している中でこの2階で飲食をオープンするのがよいかということは大変悩んだ。その中で今飲食は開けるべきではないのではということ。

浜田人の気質からいくと、オープン後当面は2階の飲食は人が殺到すると予想される。パーティションなど万全を期しても入場制限をしても、今度は外に人が並ぶ。リスクがかなり増えるので、今ではないだろうということで、この部分は市長も延ばすべきという決断をされた。

もう一点、では下の物販をどうするか。これも書いてあるように我々としては当初から関係者と一緒になってオープニングを盛り上げていこうと。大々的にBUY浜田運動を立てて、農協にも出てもらって、前でいろいろなイベントをしようという考えがあった。ただ、こういった状況をやってそこで密になるというところは、市の施設として非常に危惧される。そうすると今度は、全くやらならいでオープンした場合、第一ビルサービスの経営計画にかなり差異が出て、ただ開けたらよいという話ではなかなか運営ができない。第一ビルサービスも21日にオープンのつもりで従業員のめども立てている状況もある。1階を開けるべきかどうかで、今協議を進めている。

決して後ろ向きな考えで何も考えていなかったわけではなく、コロナの日々感染状況が刻一刻と変わる中、第一ビルサービス、出店を希望しているテナント、仲買、皆いろいろな思いを持っている中、最終的な協議をしているとご理解いただきたい。

川上委員

少し前に副参事が言ったが、コロナ禍で先延ばしになってくると補償という話があった。どう考えても補償ではなく支援だと思うのだが、補償か支援か。

水産振興課副参事

施設利用料についてはテナントがいないと入らないと家賃相当分が、先延ばしすることによって収入が入らないので、市も支援ではなく補償になるのかと思っている。また営業に関してどうか、収益が想定より入らない点については協議が要るので、そこが補償になるのか支援になるのかは何とも言えない。盛り上げて第一ビルサービスに運営してもらうための支援という考え方ももちろんあると思うのだが、それはそれで根拠に基づいて算定しないといけない。見込んでいた収入が入らないことについては補償になるかと思う。

川上委員

なぜそのようなことを言うかという、ほかにも浜田には事業者があるので、その方々との対応もしっかり考えていただき、公平になるようにしていただきたい。

串崎委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(5) 新型コロナウイルス感染症関連の事業者向け浜田市支援策【第5弾】の実施について (報告)

串崎委員長
観光交流課長
串崎委員長

執行部から補足説明はあるか。
(以下、資料をもとに説明)
委員から質疑はあるか。
(「なし」という声あり)

(6) その他

串崎委員長

そのほかに執行部から何かあるか。
(「なし」という声あり)
委員から何かあるか。
(「なし」という声あり)

2. その他

串崎委員長
川上委員

ほかに委員から執行部へ何かあるか。
産業に関して少しお願いしておきたいのだが、確かに浜田の最重要課題は水産業だと思うが、この額が40億円を切った。浜田の産業として農産業は多分年間40億円くらいで、浜田は漁業と農業の二本柱になりつつあるので、農業も重要課題として取り上げてやっていただきたい。水産については議会ごとに水揚げ高の報告が上がっているが、農業については年に1回しか報告がない。できれば農業は四季のものなので今でいえばちょうど2月ころに柿の生産がいくらだったとか、柿の生産の中で干し柿がどれくらいできたとか、梨がどれくらい上がっているとか、3月はぼちぼちイチゴがどのくらいできたとか、そのくらいの報告があってしかるべきだと思う。こういう報告ができるか。

農林振興課長

農業生産額については毎年5月の議会で年1回報告させていただいている。これについては平成21年当時だったと思うが、国の事業を活用するに当たり浜田市の産地拡大協議会を通じて市がアンケート的に、主だった農家、JAの協力を得て農業産出額調査を行っているものである。この調査の目的については、農業生産状況というのがなかなか数値として表せるものがなかった、あるいは毎年天候の影響によってどのくらい農産物への影響があるか数値として測れるものがなかったということで、調査を開始したものである。

この数値は天候変化や生産規模の目安、非常に有益なものだと思っているので、国の事業が終わった後も市で継続調査している。

これらの数値については国が発表する農業生産額という、統計上からはじいたものが国から公表され、各市町村別に出ている。各市では国が公表している数値しか把握できない。そういったものしか活用していない。国が統計調査で出しているものなので、あくまで推計であり、詳細な品目ごとの数

値が表されていない。各市も農産物の把握が非常に困難なため、国の統計調査しか使えないという経過がある。浜田市ではそこを少しでもわかりやすいように、状況が把握できるようにということで、現在の方法を採用している。JAや農家の皆さんに個別に協力いただいてアンケートのような形でしていることから、年1回の報告という形にさせていただいている。

委員ご指摘のように農作物については四季折々で違う品目が出てくるので、現在は年に1回それを把握させてもらえれば基本、状況推移は把握できていると考え、年1回の報告とさせていただいているが、委員の言われる趣旨もわかる部分もあるので、例えばJAでの取り扱いのものなどは一部把握できるものもある。どこまで資料として提供できるかは今後研究させていただきたい。

川上委員

私がお願いしたのは、そういう努力をしてくれと。そうしないと農業に対する農業政策の中に入っていけないのではないかということを行っている。私どもに提供していただくのはもちろんうれしいのだが、その前に農業に携わる市職員が、農業に対してこれからどのように手を入れていけばよいか、どういう政策を打てばよいかを早く知るために、なるべく多く資料を取るようお願いしたい。

特に一昨年、松永牧場の関係で畜産業がぼんと上がる。金城新開団地は新しいハウスが何棟もできた。これらは将来的にどの程度の生産が増えてくるかが見えてくる。そうすれば農業政策に手が打ちやすいと思う。なるべく細かい数字を拾う努力をしていただきたいがためにこのような発言をした。難しいかもしれないが、その努力をぜひほしい。

農林振興課長

言われることは非常にわかる。うちもこういった調べたことを市の政策として生かしていきたいという思いがあって、平成21年から行っている。今は市として大豆の生産などに一部支援をさせていただいているのだが、これも浜田市での大豆の市場取引価格がどのくらいなのかは、この調査で得た数値をもとに計算しており、その中でもこのくらいの規模のこのくらいの支援を考えていこうといったものに活用させてもらっている。

ほかのものについてもおおむねの取扱量、販売額などを把握させてもらっているので、浜田市における市場での取引価格がどのように推移しているか、またそれがどういった天候の影響で価格が動いたのかは、資料として残しているので、そういったものを参考にこれまでも政策的なものを考えてきたつもりなので、今後も引き続きできるだけそういったものを集めて、有益な政策が打てるよう検討していきたい。

串崎委員長

ほかにあるか。

商工労働課長

串崎委員長

(「なし」という声あり)

では議題1の執行部報告事項で確認を忘れていた。2月5日に開催される全員協議会へ提出し説明すべきものを決定したい。

今回の報告の中の4番浜田漁港周辺エリアの施設整備状況について全員協議会で報告させていただきたい。

執行部の意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそれでよろしく願います。

では執行部は退席されて結構である。

《 執行部退席 》

3. 産業建設委員会の取組課題について（委員間で協議）

串崎委員長

タブレットにはこれまでの経過報告を載せている。これから先、どのような対応をしていくか、皆にお諮りしたい。漁師さんとの勉強会という話もこの前笹田委員がおっしゃっていたが、そういったことも併せてこれから先のことをお話ししたい。

笹田委員

以前、禁止漁の勉強会を漁師さんという話をさせていただいたのだが、漁師と県とで独自に話をさせていただいた。今の状況だと禁止されている漁についての意見交換会は難しい感じがしている。今の時期は難しいと判断させていただきたい。

串崎委員長

そのほかにあるか。

笹田委員

喫緊で申しわけないが、この間1月22日に第一ビルサービスと意見交換したが、せっかくなので意見を聞いた上で、この委員会で自由討議のようなことをして、どう感じたか委員会で把握したい気持ちがあるのだがいかがだろうか。

串崎委員長

笹田委員からの提案について、どうだろうか。

(「異議なし」という声あり)

では時間を取って話し合いをしたいと思う。日程が、2月24日は定例会議の初日には入っているが、そこでは難しいと思うので、その前がよいか。

(「2月5日」という声あり)

2月5日の全員協議会の後というご意見が出た。確認させていただく。

《 以下日程調整 》

では2月5日ということで、よろしく願います。またそのときに、布施委員も少し言われたが、ほかの委員会も提言をつくっているの、それに向けての話もさせていただこうと思う。どうぞよろしく願います。

第一ビルサービスとの意見交換に関する自由討議のほかに

何か案があるか。

(「なし」という声あり)

ではそれ一本でやって、そのときにいろいろ話があればお聞きするというので、進めさせていただく。

以上で産業建設委員会を終了する。

[12 時 00分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 串崎 利行